

次期総合計画の策定に向けた 各種アンケート調査結果の概要

令和2年12月

1

アンケートの概要

県民意識調査

対象	香川県内在住の満18歳以上の県民 3,000名（無作為抽出）
調査期間	(1) 令和元年11月11日～12月4日 (2) 令和2年9月3日～9月23日
設問の内容	(1) 本県の魅力や行政に必要な取組みなど (2) 新型コロナウイルス感染症を契機とした意識や暮らしの変化、行政に必要な取組みなど
調査方法	郵送調査
回答数	(1) 1,523件（有効回収率：50.8%） (2) 1,791件（有効回収率：59.7%）

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査

対象	県内大学等に在学中の学生、及び県内出身で県外大学等に在学中の学生
調査期間	令和2年9月7日～9月23日
設問の内容	進学理由や本県での就職の意向など
調査方法	インターネット調査
回答数	3,185件（大学等を経由して対象学生に回答フォームのURL等をメールで送付し、回答のあった件数）

2

アンケート結果の概要

県民意識調査

- 災害が少ない気候風土、豊かな食文化や自然環境を本県の魅力と感じている人が多い。
- 活力ある香川づくりに向けては、若者に魅力ある働く場の創出、生きがいを持って健やかに生活できる香川づくりに向けては、切れ目ない医療体制の構築、未来を育てる香川づくりに向けては、豊かな人間性と個性を伸ばす教育の推進を求める声が多い。
- 10年後に望む香川県の姿では、安心できる医療提供体制や地域の活性化を望む声が多い。
- 新型コロナの感染拡大を契機として、多くの人が外出自粛や他人との接触について意識するとともに、地域経済の悪化や地域活力の低下を感じており、一部では、結婚願望の低下や子どもの希望人数の減少も見られた一方で、都市への人口集中を是正すべきや県内就職を希望するようになったなど、地方への意識の高まりも見られる。また、今後の感染拡大に備えた対策として、迅速な情報提供や万全な医療提供体制の整備を求める声が多い。
- 「子育て県かがわ」を実現するうえでは、仕事と子育てを両立できる環境の整備や子育てに係る経済的支援を求める声が多く、元気に安心して暮らせる環境づくりを進めるうえでは、医療と介護の連携体制の整備やライフステージに応じた健康づくりを求める声が多い。また、高齢者や障害者が生きがいをもって暮らせる環境づくりを進めるうえでは、移動手段の確保など日常生活への支援や地域で支える体制づくりを求める声が多い。
- 防災・減災対策を進めるうえでは、ハード整備や備蓄品の確保、避難所の整備を求める声が多い。
- 県内経済の活性化を図るうえでは、産業人材の育成や成長産業の育成を求める声が多く、経済の活力を維持していくために、子育て環境や就労環境の整備を求める声が多い。
- 農林水産業を次世代に受け継いでいくうえでは、安定した所得の確保や人材の育成・確保を求める声が多い。
- 「観光かがわ」を推進するうえでは、特色ある地域資源の発掘や食文化の魅力づくりのほか、周遊しやすい交通網の整備を求める声が多い。
- 人間性豊かで個性あふれる子どもたちを育てるうえでは、成果発表会や大会の確保、児童生徒に寄り添った教育・指導体制の整備を求める声が多い。
- 女性が輝く香川を実現するうえでは、仕事と生活を両立できる雇用環境の整備や保育・介護サービスの充実、再就職の支援を求める声が多い。

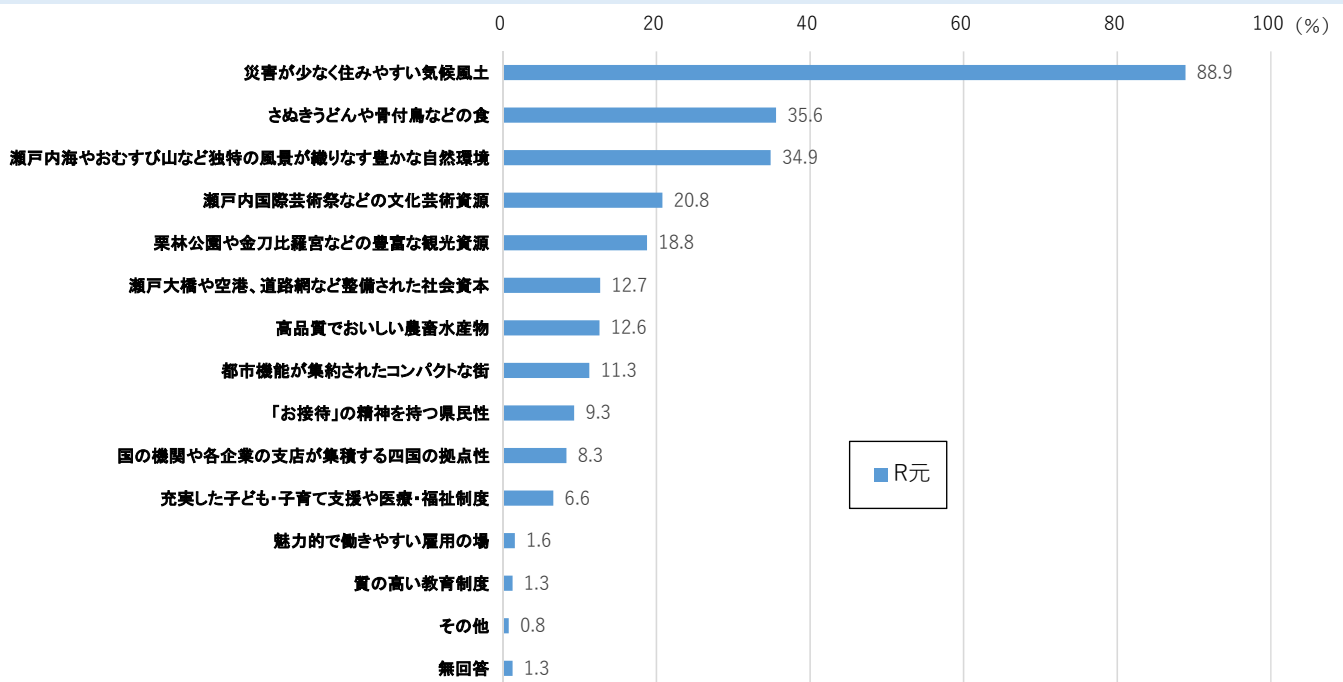
県内・県外大学生等調査

- 県内大学生、県外大学生ともに、香川県での生活意向は6割以上となっており、コロナ前と比較して、意識が高まり、特に県外大学生のUターン希望がより強くなっている。また、理由として、感染リスクの高い都会での生活を避け、家族の近くで生活したいといった意向が増えている。
- 香川県での就職情報を得る方法は、県内大学生、県外大学生ともに、前回と同様に、「学内でのキャリアセンター」の割合が最も高いが、県外大学生では、次いで、「オンラインでの就職説明会」が高くなっており、ICTを活用した就職活動の機会が増えている。
- 実現すれば香川県で就職・生活するかもしれないものについては、前回と同様に、「働きたいと思うような企業や仕事が増える」が最も多く、若者の地元定着を図るためには、若者に魅力のある働く場を創出することが必要である。

3

県民意識調査結果（1）

①本県の魅力だと思うこと

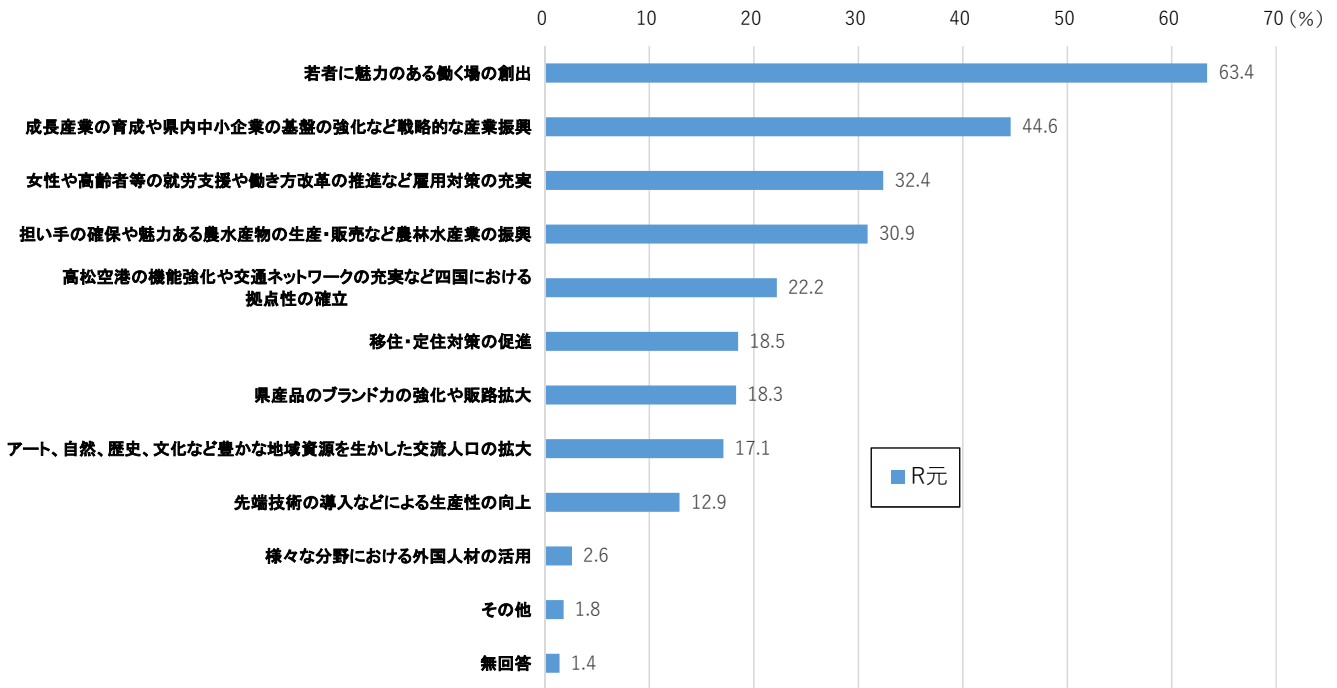


- 「災害が少なく住みやすい気候風土」（88.9%）が約90%で突出して多く、近年全国各地で頻発化・激甚化している自然災害への関心の高さがうかがえる。次いで、「さぬきうどんや骨付き鳥などの食」（35.6%）や「瀬戸内海やおむすび山など独特の風景が織りなす豊かな自然環境」（34.9%）となり、本県の豊かな食文化や自然環境を魅力と感じる回答が多い。

4

県民意識調査結果（2）

②足腰の強い地域経済を確立し、活力ある香川をつくるために必要なこと

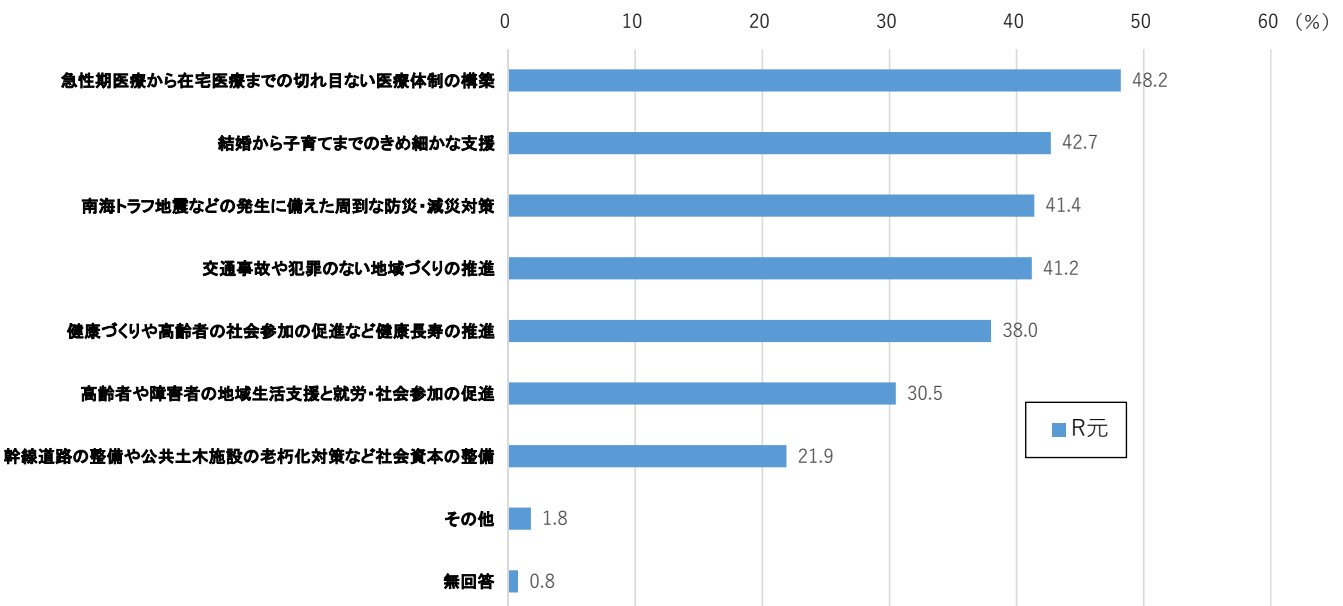


- 「若者に魅力のある働く場の創出」（63.4%）が最も多く、次いで、「成長産業の育成や県内中小企業の基盤の強化など戦略的な産業振興」（44.6%）となり、**雇用創出や産業振興**を求める声が多い。

5

県民意識調査結果（3）

③すべての人が安心と生きがいを持って健やかに生活できる香川をつくるために必要なこと

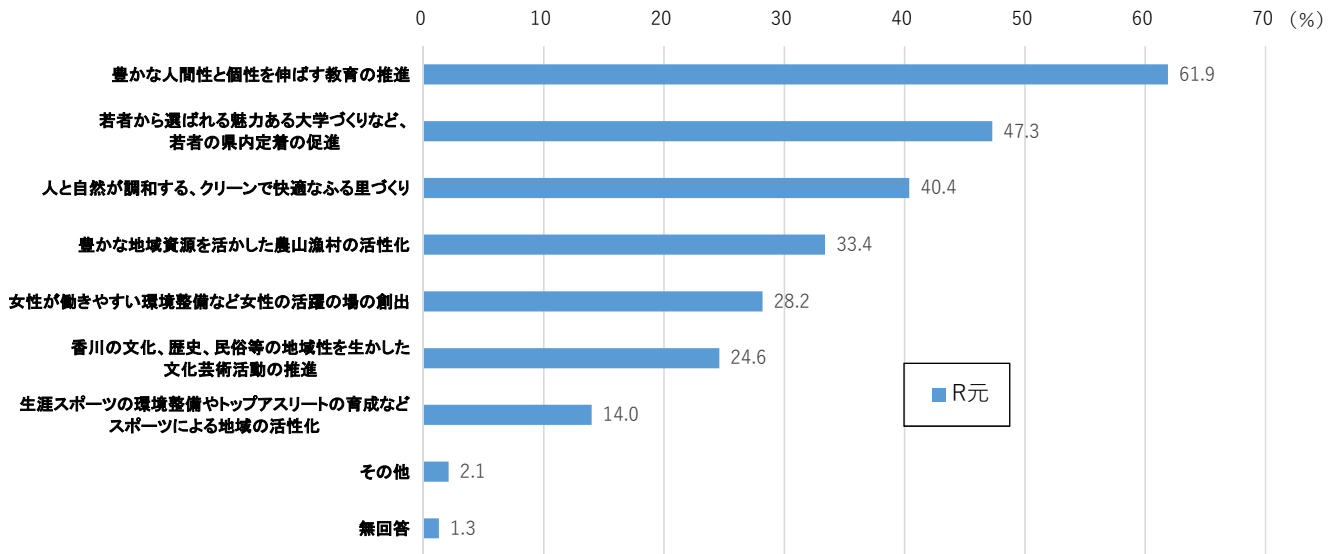


- 「急性期医療から在宅医療までの切れ目ない医療体制の整備」（48.2%）が最も多く、次いで、「結婚から子育てまでのきめ細かな支援」（42.7%）となり、**万全な医療体制の整備や結婚・子育て支援**を求める声が多い。

6

県民意識調査結果（４）

④郷土に誇りと愛着を持ち、また、子どもたちの夢と笑顔を大切に、未来を育てる香川をつくるために必要なこと

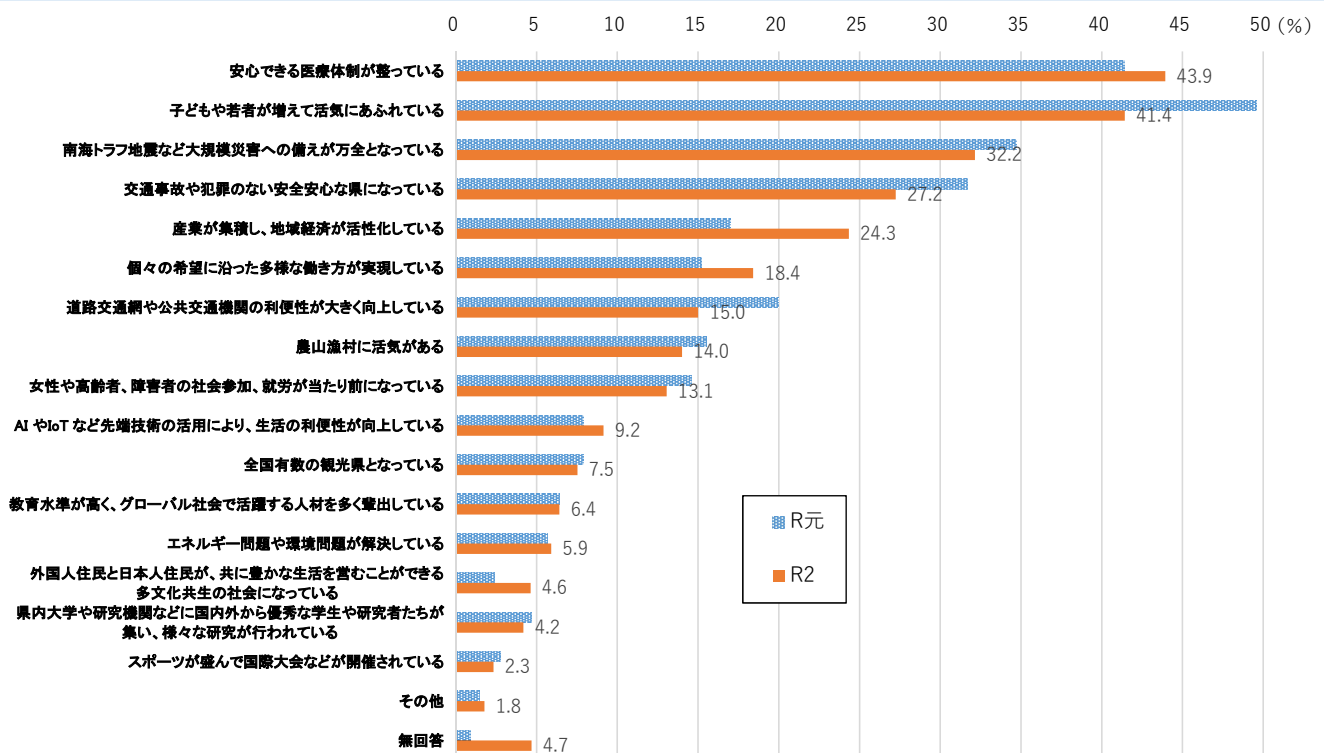


- 「豊かな人間性と個性を伸ばす教育の推進」（61.9%）が最も多く、次いで、「若者から選ばれる魅力ある大学づくりなど、若者の県内定着の促進」（47.3%）となり、**教育体制の整備**を求める声が多い。

7

県民意識調査結果（５）

⑤10年後に望む香川県の姿

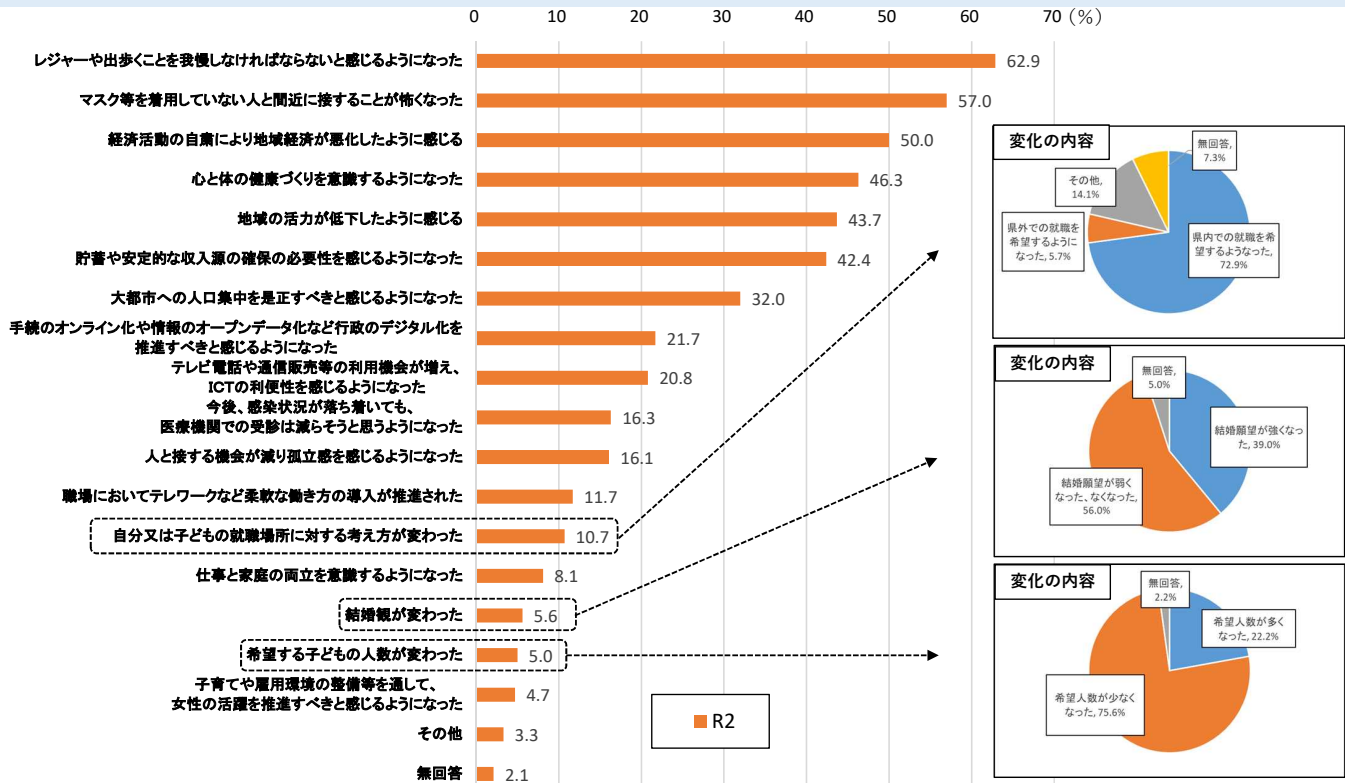


- R2年度の調査結果は、「安心できる医療体制が整っている」（43.9%）と「子どもや若者が増えて活気にあふれている」（41.4%）が40%以上となり、**医療提供体制の整備や地域の活性化を望む**回答が多い。
- R2年度とR元年度の調査結果を比較すると、「産業が集積し、地域経済が活性化している」が約7%増加（17.0%→24.3%）し、**新型コロナの影響により落ち込んだ地域経済の回復、拡大へのニーズが高まっている。**

8

県民意識調査結果（6）

⑥新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、意識が変化したり、地域社会が変容したと感ずること

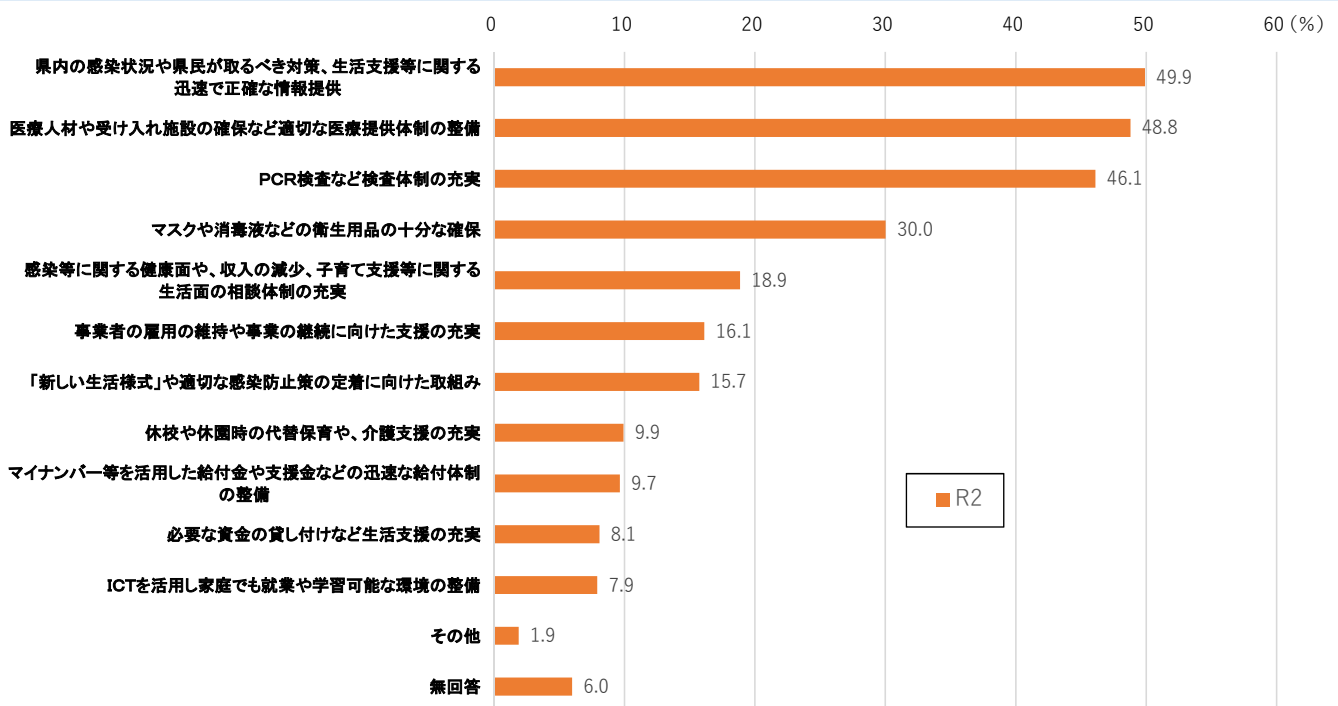


- 「レジャーや出歩くことを我慢しなければならないと感じるようになった」（62.9%）や「マスク等を着用していない人と間近に接することが怖くなった」（57.0%）など、**感染予防のための外出自粛や他人との接触について意識している**回答が多く、次に、**地域経済の悪化や地域活力の低下**を感じている回答が多い。
- また、一部では、**県内就職の意識の高まり**のほか、**結婚願望の低下**や**子どもの希望人数の減少**も見られる。

9

県民意識調査結果（7）

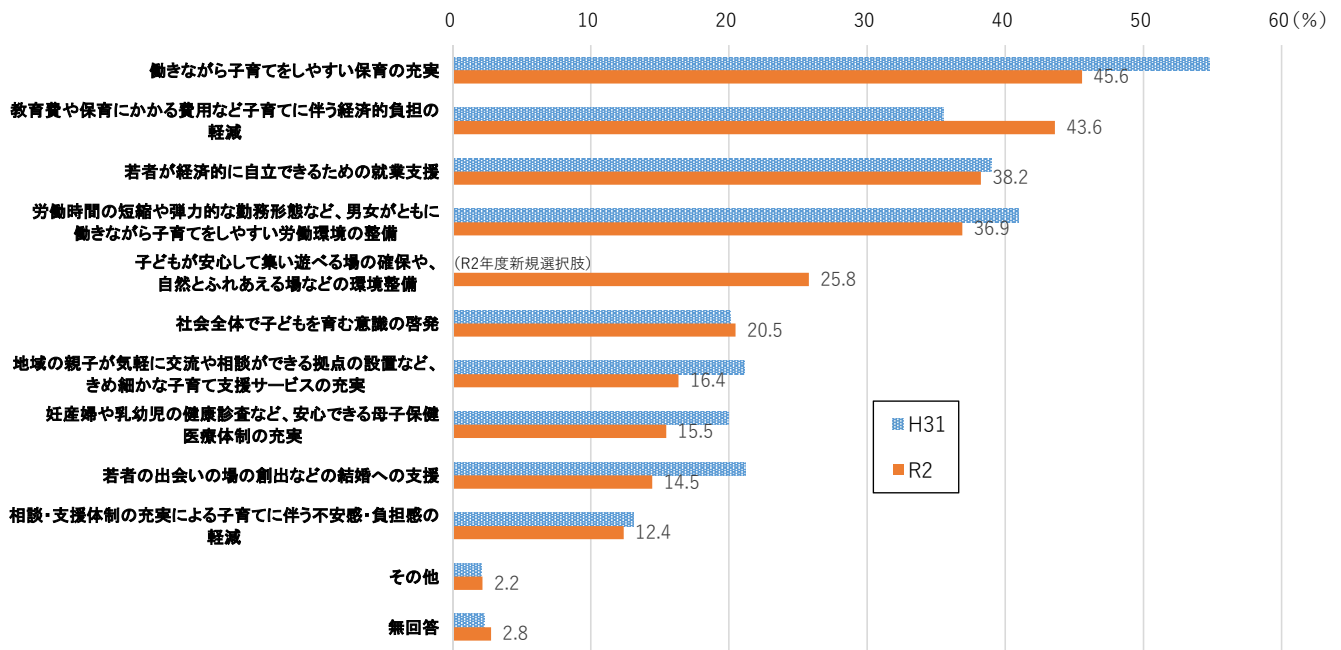
⑦今後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えた対策として、重要なこと



- 「県内の感染状況や県民が取るべき対策、生活支援等に関する迅速で正確な情報提供」（49.9%）が最も多く、次いで、「医療人材や受け入れ施設の確保など適切な医療提供体制の整備」（48.8%）や「PCR検査など検査体制の充実」（46.1%）となり、**迅速で正確な情報提供**や**万全な医療提供体制の整備**を求める声が多い。

県民意識調査結果（8）

⑧「子育て県かがわ」を実現するうえで重要なこと



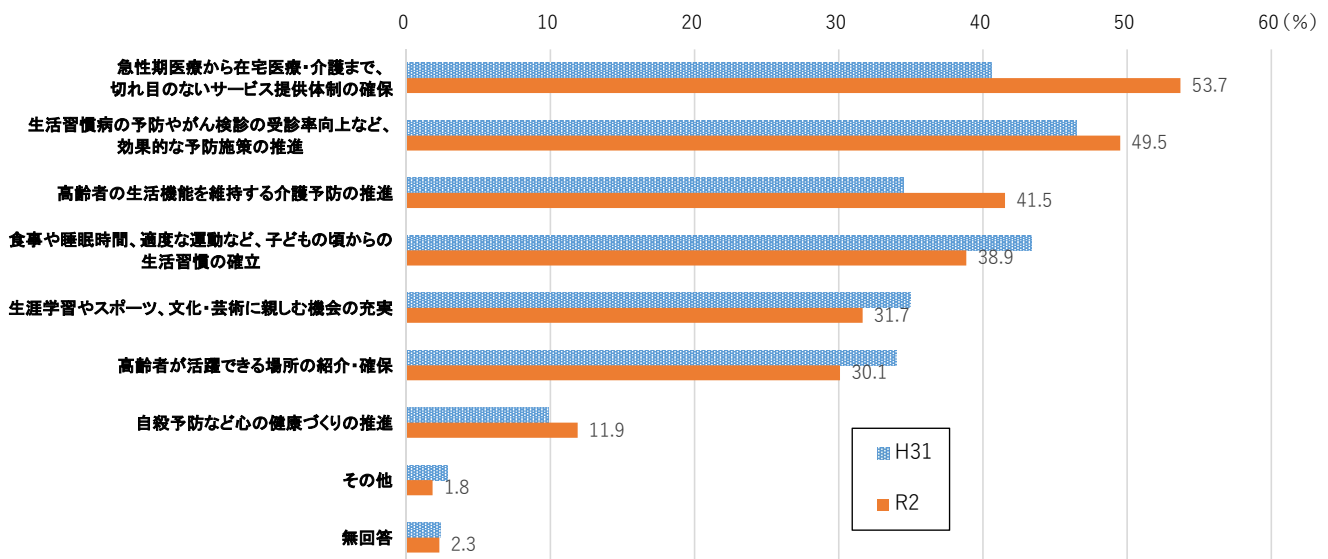
- R2年度の調査結果は、「働きながら子育てをしやすい保育の充実」（45.6%）と「教育費や保育にかかる費用など子育てに伴う経済的負担の軽減」（43.6%）が40%以上となり、**仕事と子育てを両立できる環境の整備**や**子育てに係る経済的支援**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「子どもが安心して集い遊べる場の確保や、自然とふれあえる場などの環境整備」が25.8%であったほか、「教育費や保育にかかる費用など子育てに伴う経済的負担の軽減」が約8%増加（35.5%→43.6%）した。

※「H31」は、第2期かがわ創生総合戦略の策定に向けてH31年4月に行った県民意識調査結果（以下、P20まで同様）

11

県民意識調査結果（9）

⑨元気に安心して暮らせる環境づくりを進めるうえで重要なこと

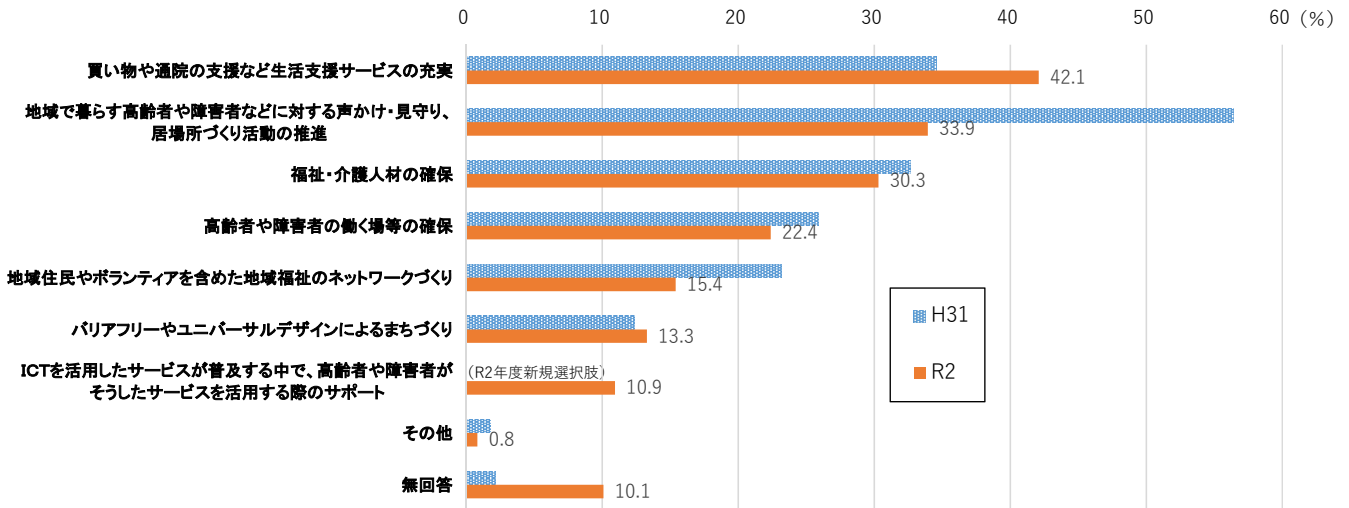


- R2年度の調査結果は、「急性期医療から在宅医療・介護まで、切れ目のないサービス提供体制の確保」（53.7%）が50%を超えて最も多く、次いで、「生活習慣病の予防やがん検診の受診率向上など、効果的な予防施策の推進」（49.5%）となり、**医療と介護の連携体制の整備**や**ライフステージに応じた健康づくり**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、「急性期医療から在宅医療・介護まで、切れ目のないサービス提供体制の確保」が約13%増加（40.6%→53.7%）し、「高齢者の生活機能を維持する介護予防の推進」が7%増加（34.5%→41.5%）しており、**介護予防に向けた取り組み**へのニーズも高まっている。

12

県民意識調査結果 (10)

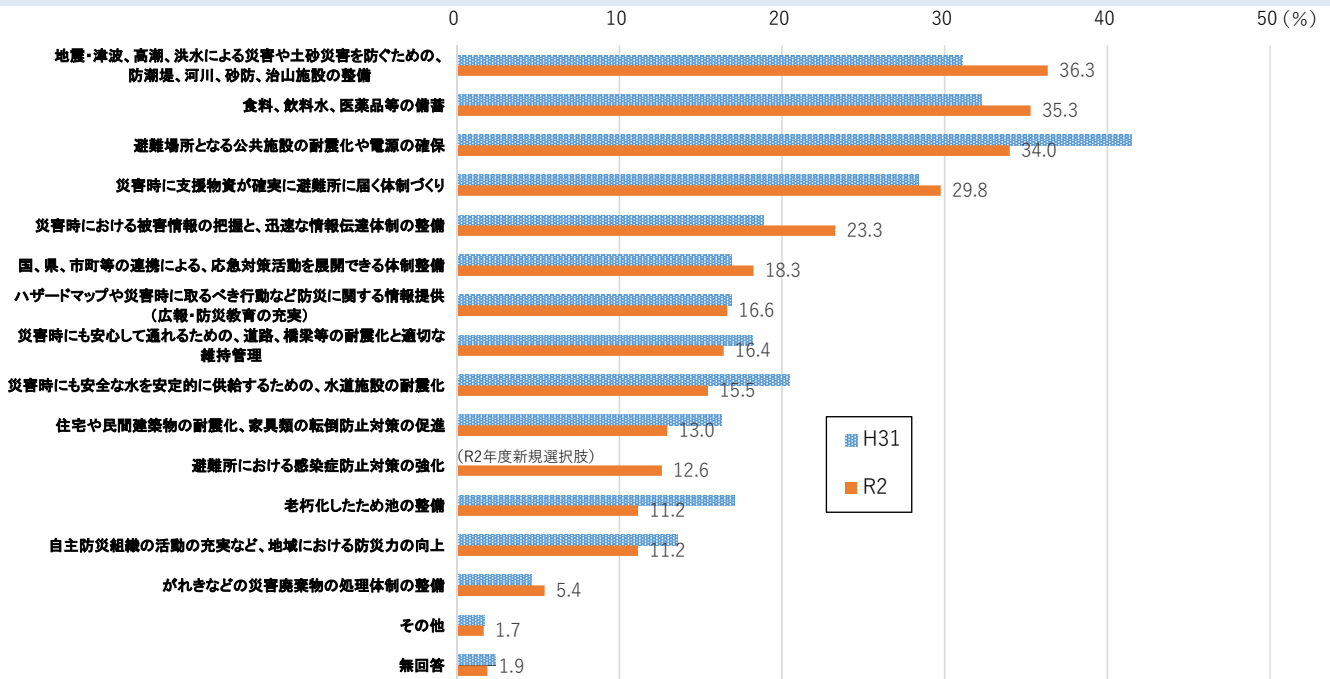
⑩高齢者や障害者が安心し、生きがいをもって暮らせる環境づくりを進めるうえで重要なこと



- R2年度の調査結果は、「買い物や通院の支援など生活支援サービスの充実」(42.1%)が最も多く、次いで、「地域で暮らす高齢者や障害者などに対する声かけ・見守り、居場所づくり活動の推進」(33.9%)となり、**移動手段の確保など日常生活への支援や地域で支える体制整備**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「ICTを活用したサービスが普及する中で、高齢者や障害者がそうしたサービスを活用する際のサポート」が10.9%であったほか、「買い物や通院の支援など生活支援サービスの充実」が約7%増加(34.6%→42.1%)した一方で、「地域で暮らす高齢者や障害者などに対する声かけ・見守り、居場所づくり活動の推進」が約23%減少(56.4%→33.9%)した。

県民意識調査結果 (11)

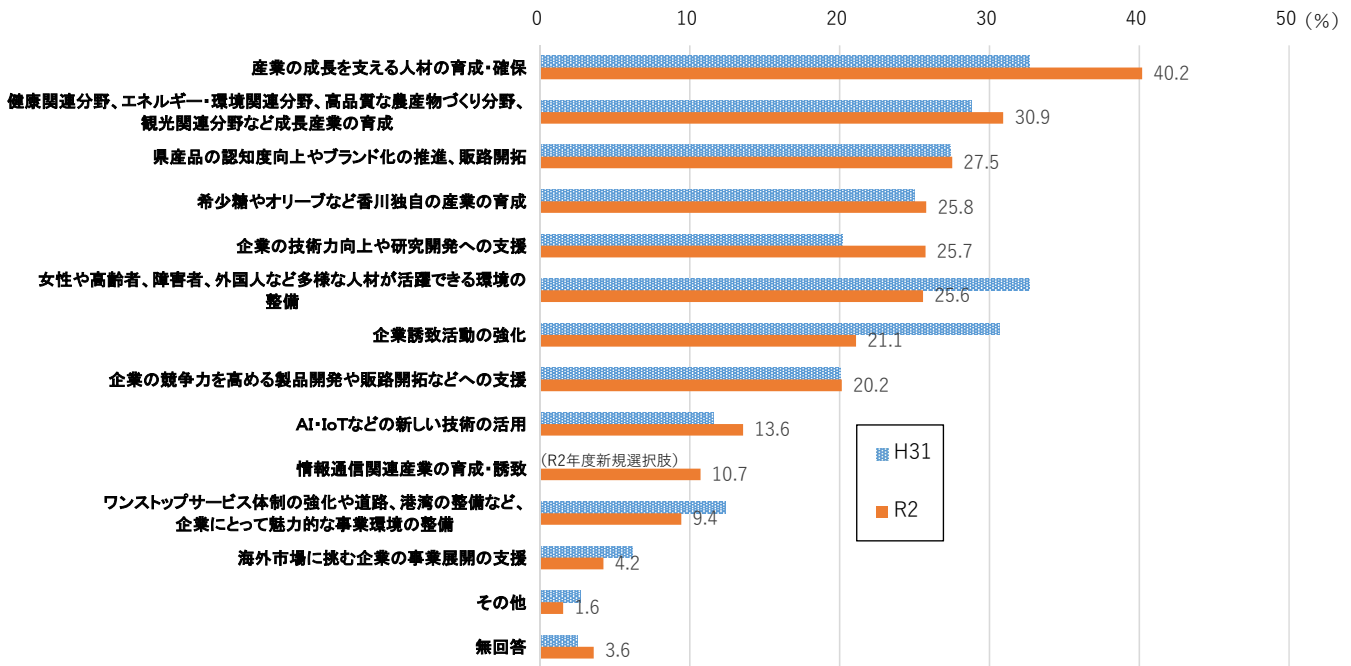
⑪一人ひとりの命を守る防災・減災対策を進めるうえで重要なこと



- R2年度の調査結果は、「地震・津波、高潮、洪水による災害や土砂災害を防ぐための、防潮堤、河川、砂防、治山施設の整備」(36.3%)や「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」(35.3%)、「避難場所となる公共施設の耐震化や電源の確保」(34.0%)が30%を超えており、**ハード整備や備蓄品の確保、避難場所の整備**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「避難所における感染症防止対策の強化」が12.6%であったほか、「地震・津波、高潮、洪水による災害や土砂災害を防ぐための、防潮堤、河川、砂防、治山施設の整備」が約5%増加(31.1%→36.3%)した一方で、「避難場所となる公共施設の耐震化や電源の確保」が約8%減少(41.5%→34.0%)した。

県民意識調査結果（12）

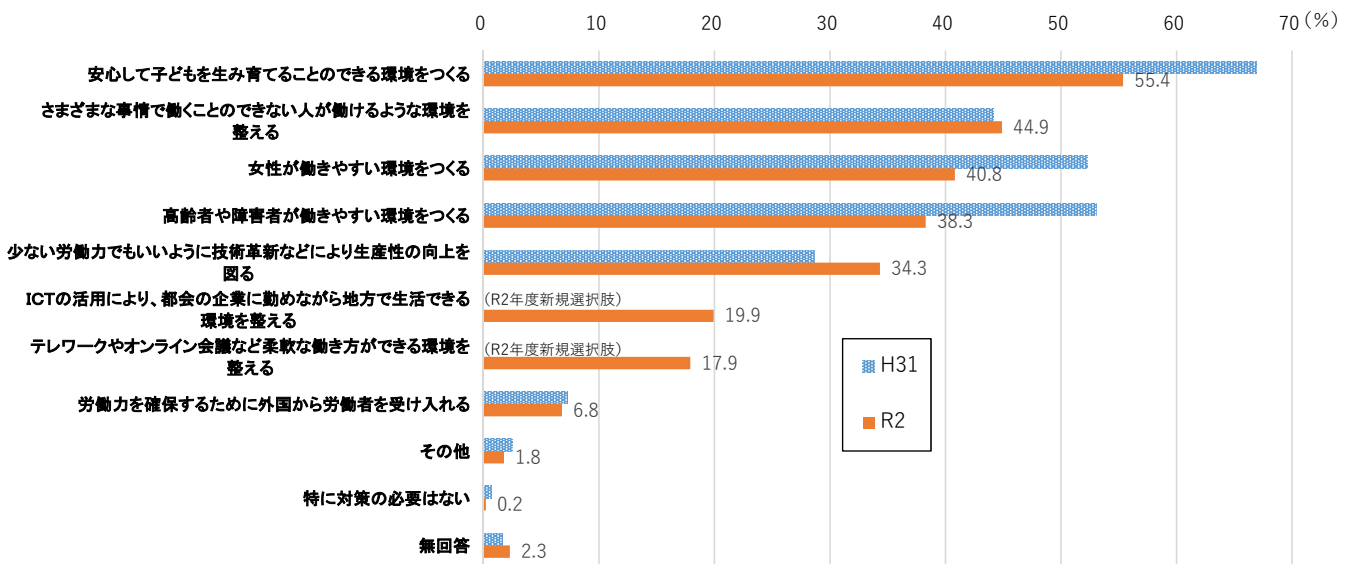
⑫香川の経済を力強く引っ張る産業を育成・集積するために重要なこと



- R2年度の調査結果は、「産業の成長を支える人材の育成・確保」（40.2%）が最も多く、次いで、「健康関連分野、エネルギー・環境関連分野、高品質な農産物づくり分野、観光関連分野など成長産業の育成」（30.9%）となり、**産業人材の育成や成長産業の育成**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「情報通信関連産業の育成・誘致」が10.7%であったほか、「産業の成長を支える人材の育成・確保」が約8%増加（32.7%→40.2%）した一方で、「企業誘致活動の強化」が約10%減少（30.7%→21.1%）、「女性や高齢者、障害者、外国人など多様な人材が活躍できる環境の整備」が約7%減少（32.7%→25.6%）した。

県民意識調査結果（13）

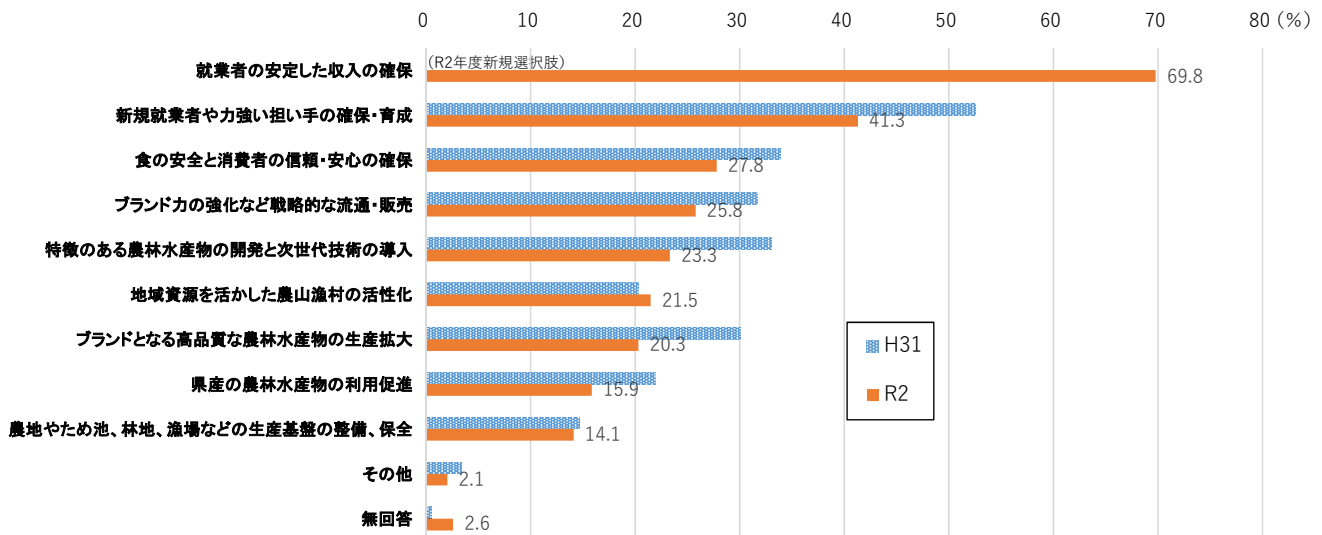
⑬労働人口が減少した場合、経済の活力を維持していくために重要なこと



- R2年度の調査結果は、「安心して子どもを生み育てることのできる環境をつくる」（55.4%）が50%を超えて最も多く、次いで、「さまざまな事情で働くことのできない人が働けるような環境を整える」（44.9%）となり、**子育て環境の整備や個々の事情を踏まえた就労環境の整備**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「ICTの活用により、都会の企業に勤めながら地方で生活できる環境を整える」が19.9%、「テレワークやオンライン会議など柔軟な働き方ができる環境を整える」が17.9%となったほか、「少ない労働力でもいっように技術革新などにより生産性の向上を図る」が約6%増加（28.7%→34.3%）した一方で、「高齢者や障害者が働きやすい環境をつくる」が約15%減少（53.1%→38.3%）し、「安心して子どもを生み育てることのできる環境をつくる」が約12%減少（66.9%→55.4%）し、「女性が働きやすい環境をつくる」も約12%減少（52.3%→40.8%）した。

県民意識調査結果（14）

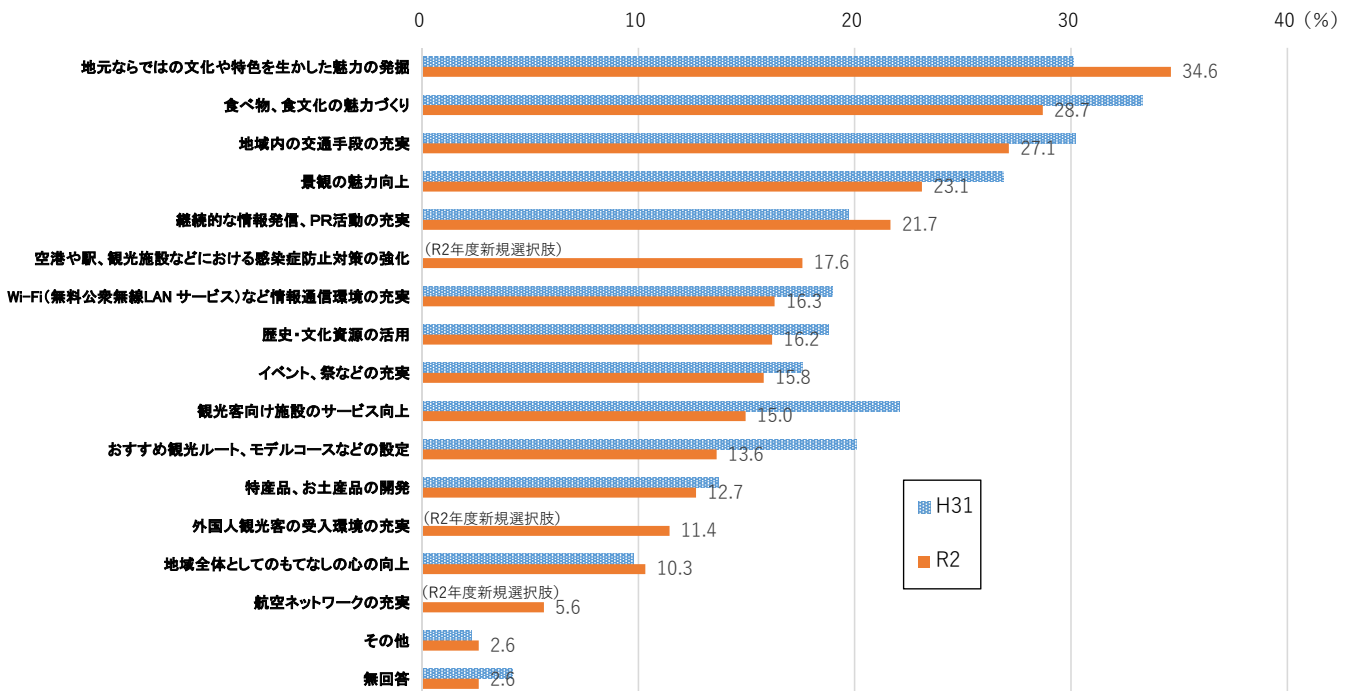
⑭農林水産業を魅力ある産業として若者に引き継いでいくうえで重要なこと



- R2年度の調査結果は、「就業者の安定した収入の確保」（69.8%）が約70%と突出して多く、次いで、「新規就業者や力強い担い手の確保・育成」（41.3%）となり、**安定した所得の確保や人材の確保・育成**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「就業者の安定した収入の確保」が69.8%となった一方で、「新規就業者や力強い担い手の確保・育成」が約11%減少（52.6%→41.3%）し、「特徴のある農林水産物の開発と次世代技術の導入」が約10%減少（33.1%→23.3%）し、「ブランドとなる高品質な農林水産物の生産拡大」も約10%減少（30.1%→20.3%）した。

県民意識調査結果（15）

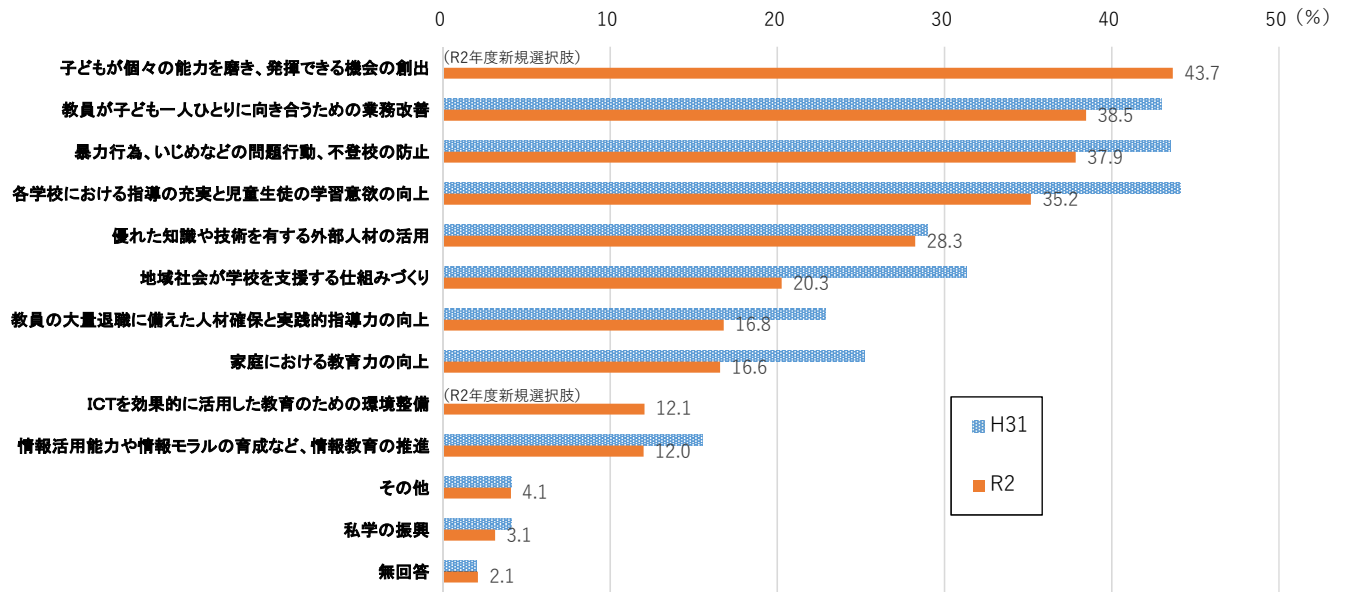
⑮国内外から人を呼び込む「観光かがわ」を推進するうえで重要なこと



- R2年度の調査結果は、「地元ならではの文化や特色を生かした魅力の発掘」（34.6%）が最も多く、次いで、「食べ物、食文化の魅力づくり」（28.7%）、「地域内の交通手段の充実」（27.1%）となり、**特色ある地域資源の発掘や食文化の魅力づくり、周遊しやすい交通網の整備**に対するニーズが高い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「空港や駅、観光施設などにおける感染症防止対策の強化」が17.6%、「外国人観光客の受入環境の充実」が11.4%、「航空ネットワークの充実」が5.6%となった一方で、「観光客向け施設のサービス向上」が約7%減少（22.1%→15.0%）し、「おすすめ観光ルート、モデルコースなどの設定」も約7%減少（20.1%→13.6%）した。

県民意識調査結果 (16)

⑩人間性豊かで個性あふれる子どもたちを育てるうえで重要なこと

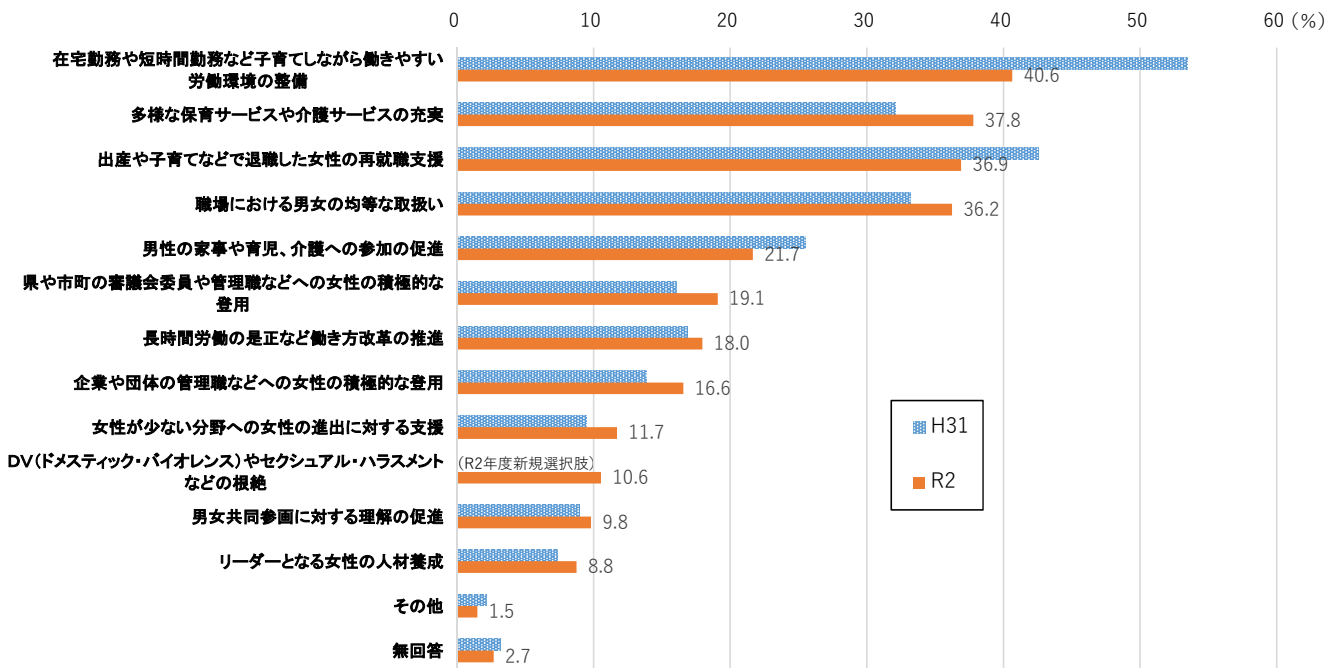


- R2年度の調査結果は、「子どもが個々の能力を磨き、発揮できる機会の創出」(43.7%)が最も多く、次いで、「教員が子ども一人ひとりに向き合うための業務改善」(38.5%)、「暴力行為、いじめなどの問題行動、不登校の防止」(37.9%)、「各学校における指導の充実と児童生徒の学習意欲の向上」(35.2%)となり、**成果発表会や大会の確保、児童生徒に寄り添った教育・指導体制の整備**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「子どもが個々の能力を磨き、発揮できる機会の創出」が43.7%、「ICTを効果的に活用した教育のための環境整備」が12.1%となった一方で、「地域社会が学校を支援する仕組みづくり」が11%減少(31.3%→20.3%)した。

19

県民意識調査結果 (17)

⑪女性が輝く香川を実現するうえで重要なこと

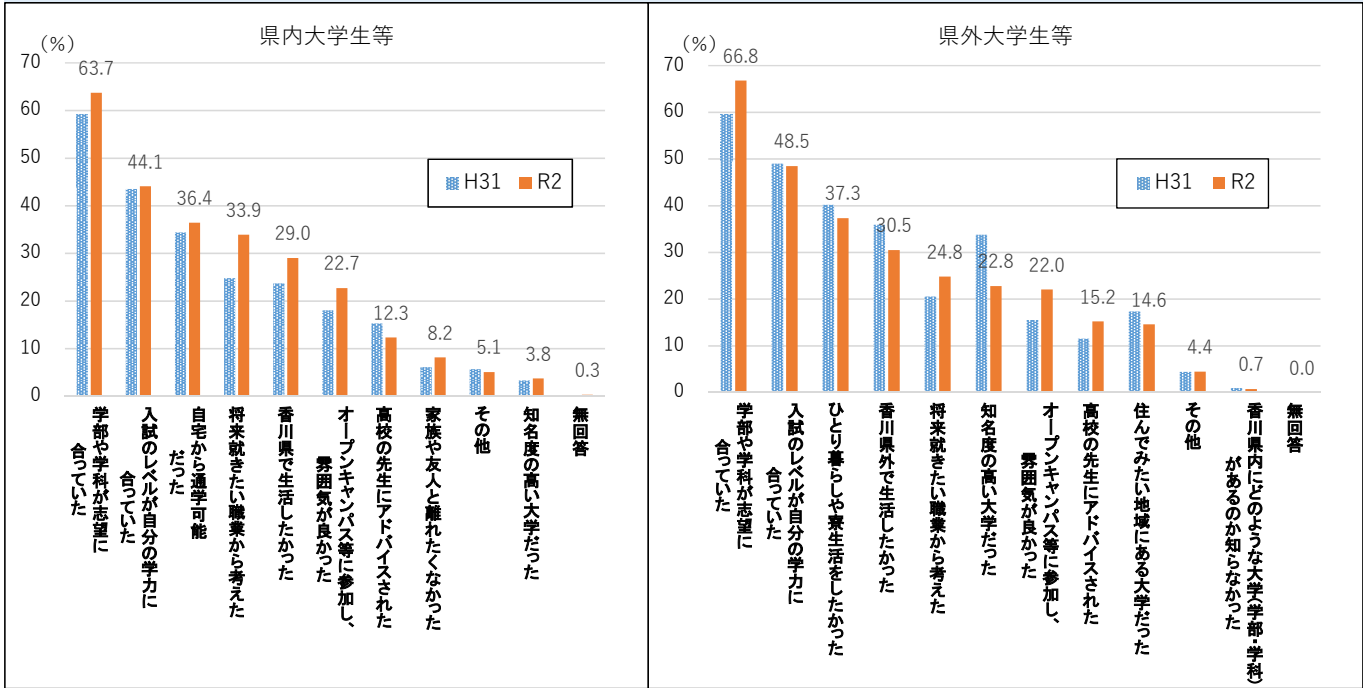


- R2年度の調査結果は、「在宅勤務や短時間勤務など子育てしながら働きやすい労働環境の整備」(40.6%)が最も多く、次いで、「多様な保育サービスや介護サービスの充実」(37.8%)、「出産や子育てなどで退職した女性の再就職支援」(36.9%)、「職場における男女の均等な取扱い」(36.2%)となり、**仕事と生活を両立できる雇用環境の整備や保育・介護サービスの充実、再就職に向けた支援**を求める声が多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、R2年度に新たに選択肢に追加した、「DV(ドメスティック・バイオレンス)やセクシュアル・ハラスメントなどの根絶」が10.6%となった一方で、「在宅勤務や短時間勤務など子育てしながら働きやすい労働環境の整備」が約13%減少(53.5%→40.6%)した。

20

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（1）

①大学等への進学理由

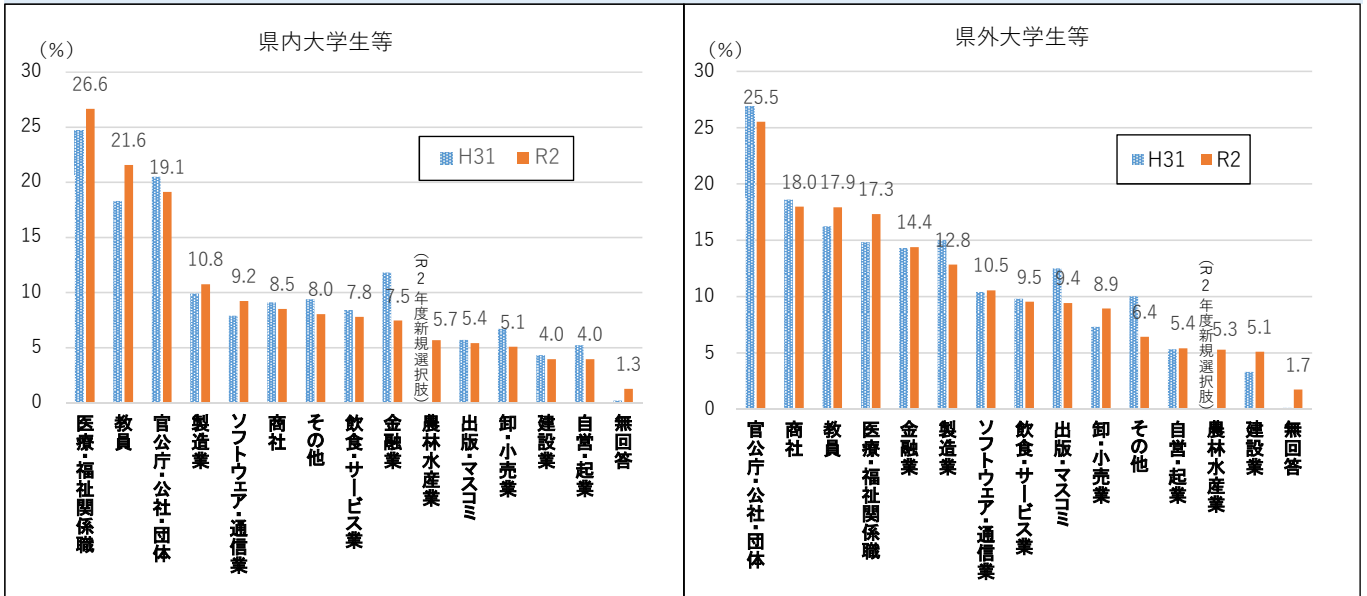


- R2年度の調査結果では、県内大学生と県外大学生どちらも、「学部や学科が志望に合っていた」が6割以上（県内大学生：63.7%、県外大学生：66.8%）で最も多く、次いで、「入試のレベルが自分の学力に合っていた」が多かった。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「将来就きたい職業から考えた」が約9%増加（24.8%→33.9%）した一方で、県外大学生では、「知名度の高い大学だった」が11%減少（33.8%→22.8%）した。

※「H31」は、第2期かがわ創生総合戦略の策定に向けてH31年4月に行った県内・県外大学生等アンケート調査結果（以下、P28まで同様）

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（2）

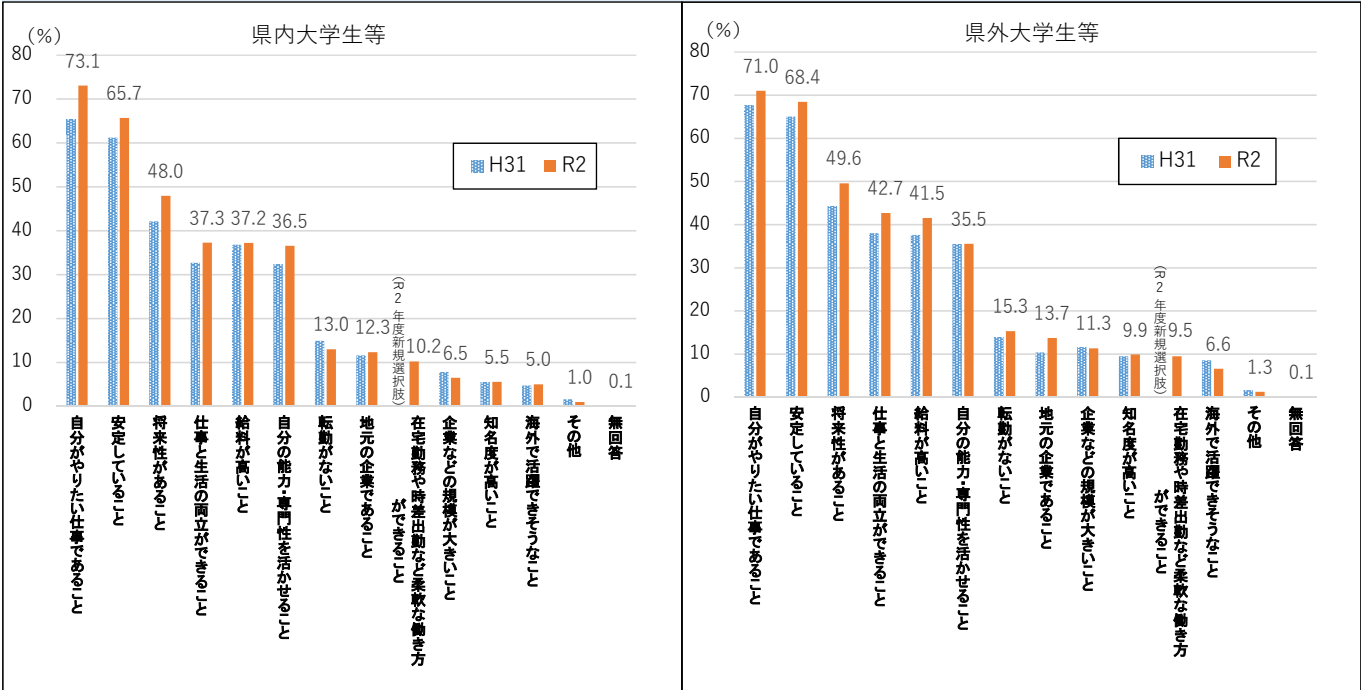
②卒業後に就きたい職業



- R2年度の調査結果では、県内大学生では、「医療・福祉関係職」が最も多く（26.6%）、次いで、「教員」（21.1%）、「官公庁・公社・団体」（19.1%）が多い。また、県外大学生では、「官公庁・公社・団体」（25.5%）が最も多く、次いで、「商社」（18.0%）、「教員」（17.9%）、「医療・福祉関係職」（17.3%）が多かった。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、依然として、「医療・福祉関係職」への就職意向が多い一方で、「金融業」が約4%減少（11.8%→7.5%）した。また、県外大学生では、依然として、「官公庁・公社・団体」への就職意向が多い一方で、「出版・マスコミ」が約3%減少（12.5%→9.4%）した。

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（3）

③就職先を決めるときに重視すること

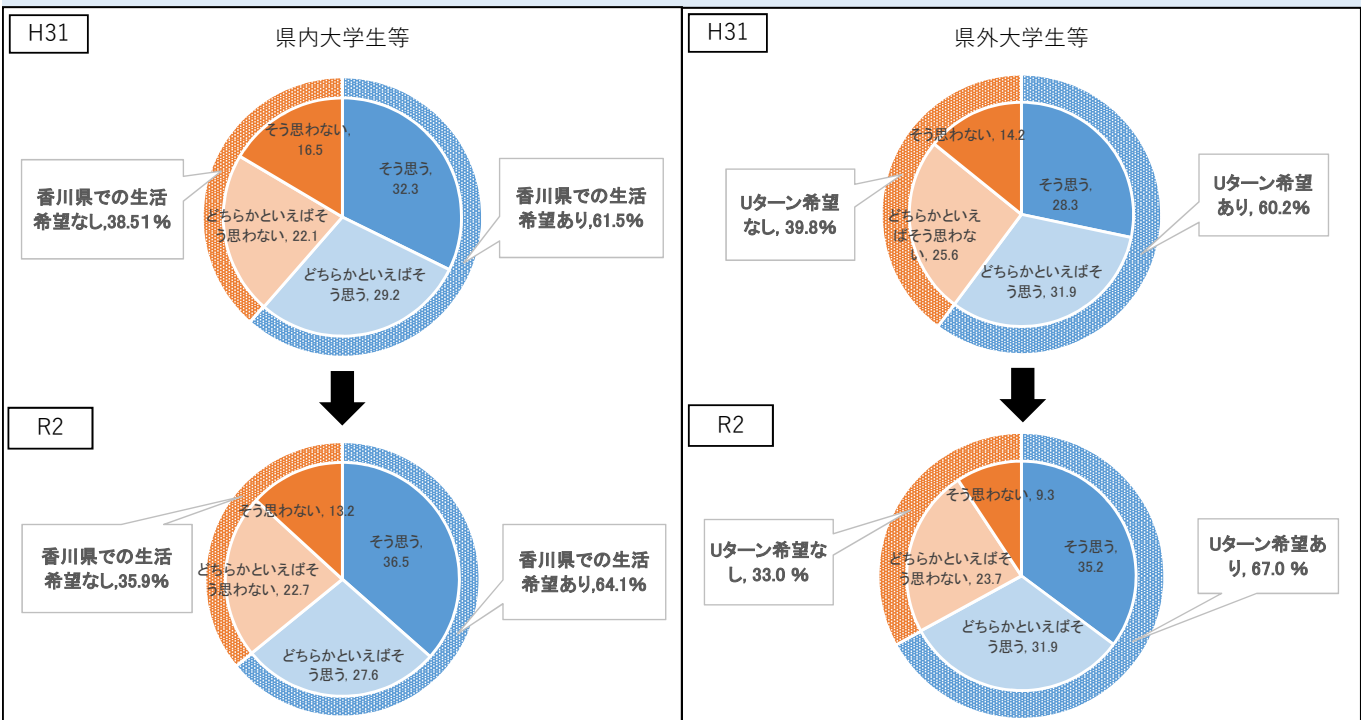


- R2年度の調査結果では、県内大学生、県外大学生ともに、「自分がやりたい仕事であること」が7割以上で最も多く（県内大学生：73.1%、県外大学生：71.0%）、次いで、「安定していること」が6割以上で多かった。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「自分がやりたい仕事であること」が約8%増加（65.4%→73.1%）、「将来性があること」が約6%増加（42.1%→48.0%）した。県外大学生では、「将来性があること」が約5%増加（44.3%→49.6%）、「仕事と生活の両立ができること」も約5%増加（38.0%→42.7%）した。

23

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（4）

④香川県での卒業後の生活意向

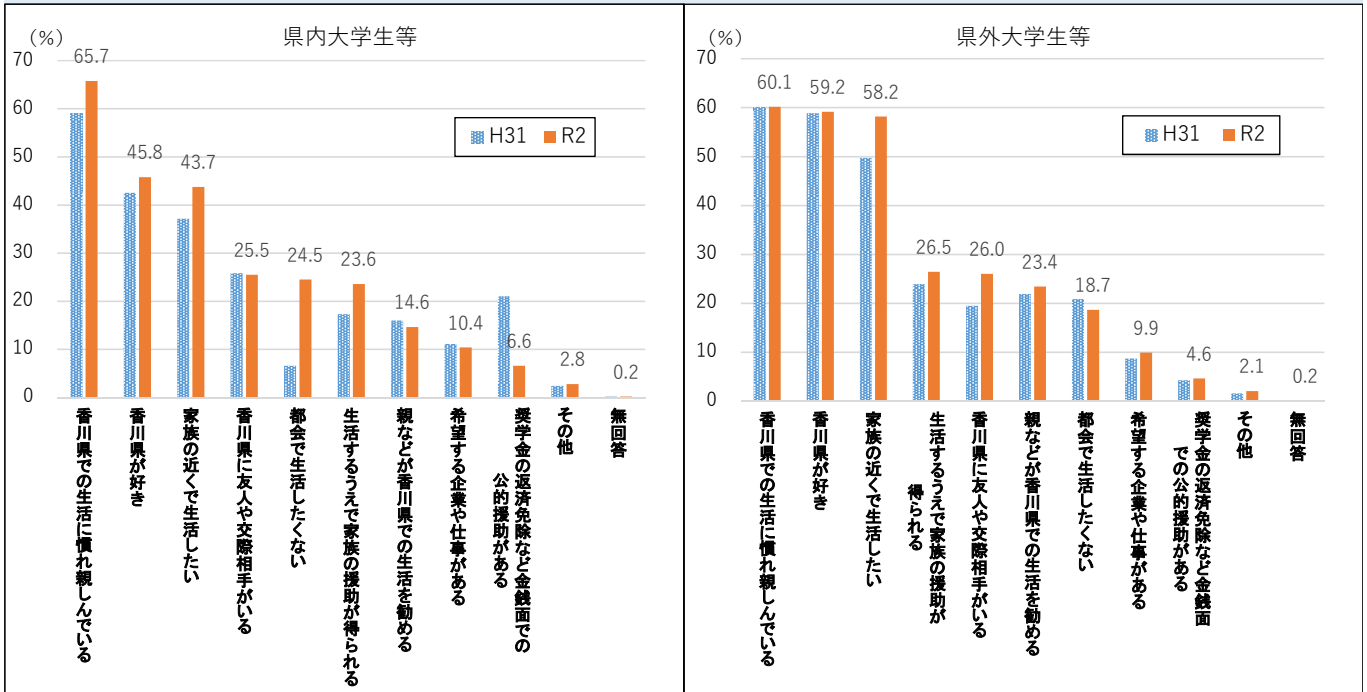


- R2年度の調査結果では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「香川県での生活希望あり」、「Uターン希望あり」が県内大学生（64.1%）、県外大学生（67.0%）ともに、6割以上であった。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「香川県での生活希望あり」は約3%増加（61.5%→64.1%）し、県外大学生では、「Uターン希望あり」が約7%増加（60.2%→67.0%）しており、全体として、県内での生活意向が強くなり、特に、県外大学生のUターン希望がより強くなっている。

24

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（5）

⑤香川県で暮らしたい理由、香川県に戻りたい理由

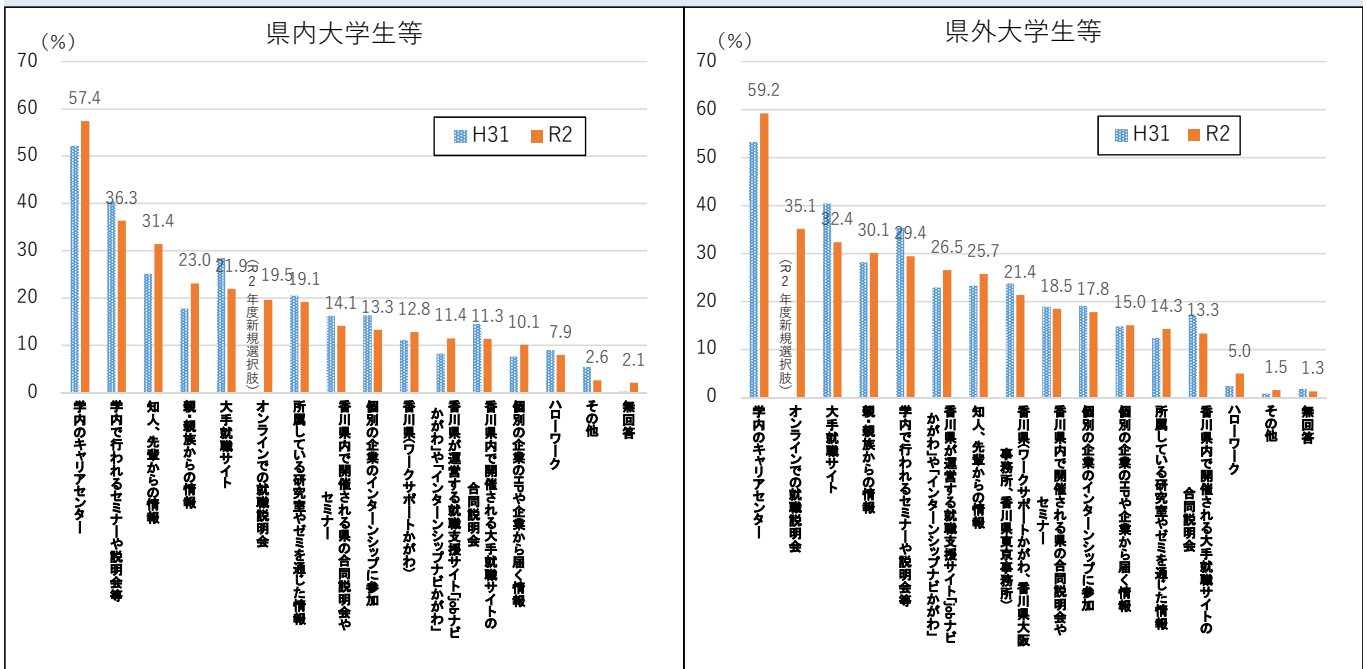


- R2年度の調査結果では、県内大学生では、「香川県での生活に慣れ親しんでいる」が6割以上で最も多く、県外大学生では、「香川県での生活に慣れ親しんでいる」、「香川県が好き」「家族の近くで生活したい」が6割前後で多かった。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「都会で生活したくない」が約18%増加（6.6%→24.5%）し、県外大学生では、「家族の近くで生活したい」が約9%増加（49.7%→58.2%）しており、**新型コロナウイルスの感染リスクの高い都会での生活を避け、家族の近くで生活したいといった意向が強くなっている。**

25

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（6）

⑥香川県での就職情報を得る方法

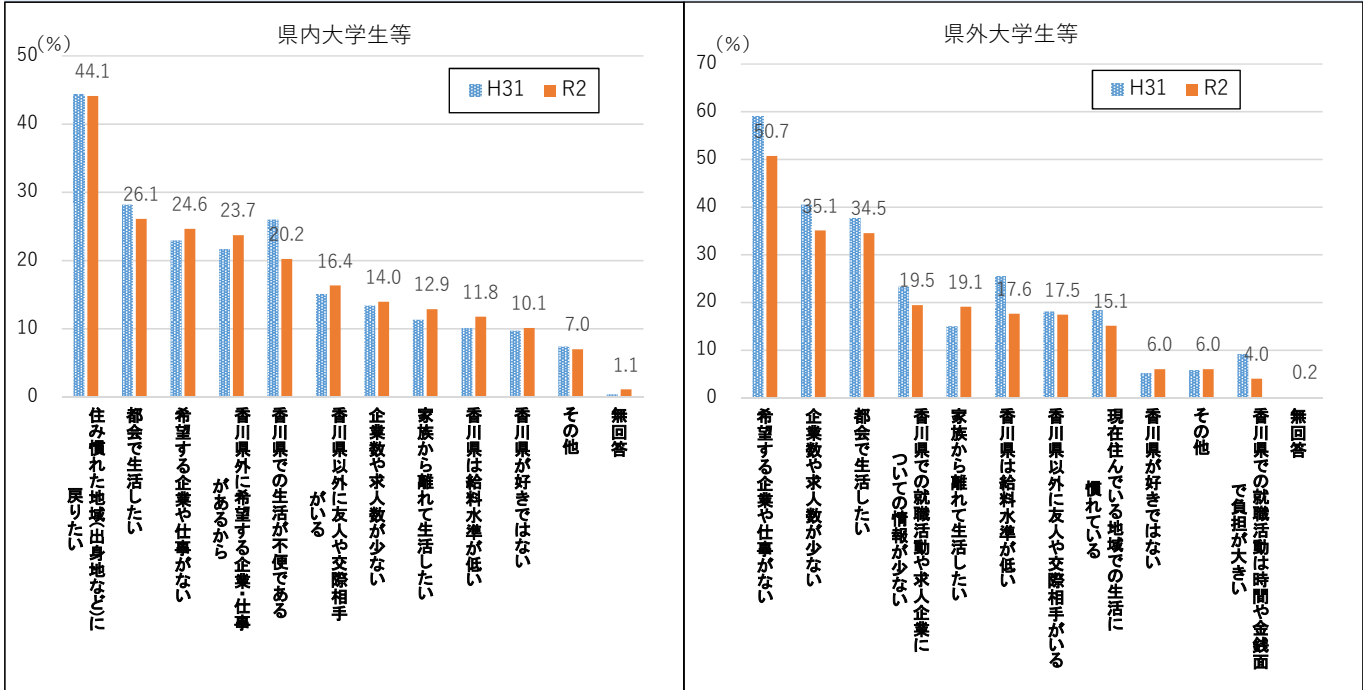


- R2年度の調査結果では、県内大学生では、「学内のキャリアセンター」（57.4%）が最も多く、次いで、「学内で行われるセミナーや説明会等」（36.3%）が多い。県外大学生では、「学内のキャリアセンター」（59.2%）が最も多く、次いで、「オンラインでの就職説明会」（35.1%）となっており、**ICTを活用した就職活動の機会が増えている。**
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生、県外大学生ともに、「学内のキャリアセンター」が6%程度増加しているほか、県内大学生では、「知人や先輩からの情報」が約6%増加（25.1%→31.4%）、県外大学生では、R2年度に新規で追加した選択肢である「オンラインでの就職説明会」が35.1%となっている。

26

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（7）

⑦香川県で暮らしたいと思わない理由、香川県に戻りたいと思わない理由

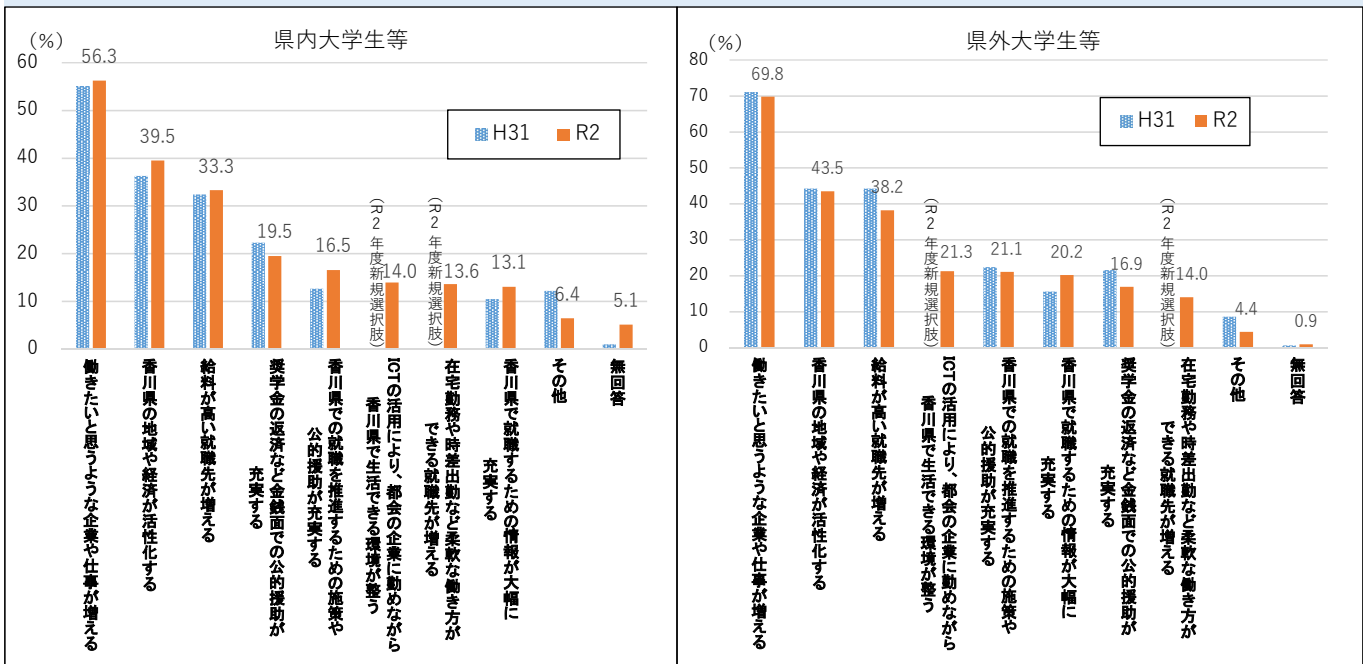


- R2年度の調査結果では、県内大学生では、「住み慣れた地域（出身地など）に戻りたい」（44.3%）が最も多く、県内の大学に進学した学生のUターン希望が多くみられる。県外大学生では、「希望する企業や仕事がない」（50.7%）が最も多い。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「香川県での生活が不便である」が約6%減少（26.0%→20.2%）した。県外大学生では、「希望する企業や仕事がない」が約8%減少（58.9%→50.7%）し、「香川県は給料水準が低い」も約8%減少（25.5%→17.6%）した。

27

県内大学生・県出身県外大学生等アンケート調査結果（8）

⑧実現すれば香川県で就職・生活するかもしれないもの



- R2年度の調査結果では、県内大学生、県外大学生ともに、「働きたいと思うような企業や仕事が増える」が最も多く（県内大学生：56.3%、県外大学生：69.8%）、若者の地元定着を図るためには、若者に魅力のある働く場を創出することが必要である。
- R2年度とH31年度の調査結果を比較すると、県内大学生では、「香川県での就職を推進するための施策や公的援助が充実する」が約4%増加（12.6%→16.5%）し、県外大学生では、「香川県で就職するための情報が大幅に充実する」が約5%増加（15.5%→20.2%）した。

28